

今回は地歴公民科の授業改善報告です。

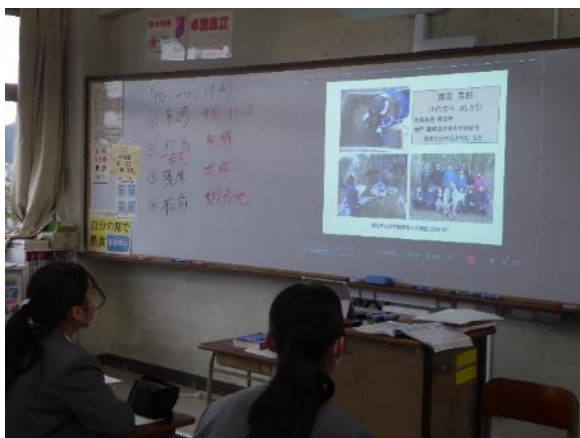
## ◇ 研究授業（日本史B：関高等学校・鹿児島大学連携授業）

- 日時：令和4年1月13日 第2限      ○科目：日本史B
- 実施クラス：2年1組      ○授業者：岩田拓弥
- 単元：幕藩体制の成立
- テーマ：考古学的視点から考える「四つの口」体制

### ◆授業の概要

- ・前回の授業で学習した「四つの口」体制についての理解を深め、江戸時代の外交の様子について考える。
- ・鹿児島大学の渡辺芳郎教授のオンライン講義を聞き、考古学という学問について理解した上で、陶磁器の流通から「四つの口」体制について考える。
- ・オンライン講義を通して疑問を持ち、渡辺教授に直接質問をすることでその疑問を解決し、理解へと繋げていく。

### ◆授業の様子



オンライン講義の様子



オンライン講義を受けての質疑応答の様子

## ◇ 研究授業の成果と今後の課題

- ・オンライン会議システムを用いて、リアルタイムで大学教授の講義を受ける機会を設けることができた。また、生徒に大学での講義や大学での研究についてのイメージを持ってもらうことができた。
- ・オンラインでの講義を通して、考古学という学問について理解し、生徒にとって考古学の研究方法・研究成果に触れることのできる機会にできた。
- ・前回の授業である「四つの口」体制の理解をもとに、薩摩口や陶磁器に着目して江戸時代の外交について考えることができた。
- ・内容が少し難しかったこともあり、活発な質疑応答ができなかった。教授との打ち合わせの際に、生徒の様子をさらに細かく伝え、講義のテーマや流れを設定する必要があった。
- ・大学教授の前で生徒が自分の意見や考えを表現する場を設けることができなかった。

## ◇ 研究授業の感想

### 【渡辺芳郎教授】

これまで鹿児島県内の高校での出前授業は何回か行いましたが、オンラインでの授業は初めてのため、戸惑いもあったものの、とても良い経験となりました。また、『「四つの口」の考古学』というタイトルで、自分の専門分野をどのように高校生に理解してもらえるか色々悩みましたが、大学での研究やそれを踏まえた授業の一端を知ってもらえれば、大変嬉しく思います。機会を与えていただいた岩田先生に厚くお礼申し上げます。

### 【2年1組の生徒】

- ・考古学といえば遺跡を発掘したり調査したりするものだというイメージがあったので、物質資料から過去の人類の歴史・社会・文化について研究するという考古学の本当の意味を知ることができてよかった。私は物を見て、深く考えてみるということが苦手なので、少し難しそうだなと思ったけれど、昔使われていた食器等からわかることがあるなんてすごい楽しそうだなと思った。もしかしたら私が今使っているお皿も100年後には研究に使われてるかもしれないと考えると、不思議な気持ちになった。
- ・考古学について詳しく知ることができてよかった。考古学的側面から歴史を読み解くことは楽しそうだなと思った。たくさんの知識を手に入れることができてとても貴重な時間だった。進路のひとつに考古学も入れてみたいと思った。
- ・発掘したものから時代や環境を推定して、当時の時代の様子を知ることができる考古学は面白そうだなと思った。発掘された陶磁器からどんな交流が行われているのかを知ることができるのが興味深いと思った。実物の陶磁器を見てみたいと思った。
- ・どの藩がどの国と通商していたのかを知るために、その地域で出土した陶磁器や皿などがどこのもので、同じようなものが他の地域から発見されていないかということ調べていることが分かった。話の内容が難しかったけど、日用品は扱いがぞんざいで、誰か目上の人に渡すのはきれいに保存されるなど、現代の感覚で考察できることもあると知れたので良かった。教授の話が理解できるように薩摩焼とかを調べたいと思う。
- ・埋葬の話が面白かったです。墓に使われる陶器も身分によって違ったりするのかなと疑問に思ったので調べてみます。
- ・陶器などから歴史が分かるのは面白いと思いました。しかし、大学になると学ぶことも難しく大変だと思いました。
- ・大学の授業のような視点を絞った研究授業でとても難しかったです。また、貴重な時間を頂けて、私も興味のある分野でとことん調べてみたいと思えました。1つのことにおいて、こんなにも深く考えられるのだと思いました。内容では、今までの私の中の「鎖国」のイメージが変わった気がします。活発に貿易していたことがさまざまな資料を組み合わせで考えられていて謎解きみたいで面白そうでした。